

西南学院大学

2020年度西南学院大学博物館企画展 研究室訪問シリーズⅢ
黒木重雄 一絵を描くという生き方

主催 西南学院大学博物館
協力 黒木重雄研究室(西南学院大学人間科学部児童教育学科)
会期 2020年10月3日～12月18日

発行 西南学院大学博物館
〒814-8511 福岡県福岡市早良区西新3丁目13番1号
発行日 2020年10月3日



KUROKI SHIGEO
PAINTING AS A WAY OF LIFE

黒木重雄

2019年秋、西南学院大学博物館から一通のメールが届きました。内容は「展覧会をやりませんか？」というもの。発表の機会に飢えている私にとっては、飛びつきたくなるような誘いだったのですが、あまりワクワクはしませんでした。なぜなら、あの博物館は壁が少なく絵画には不向きだと思っていたからです。ましてや、私が最近描いている5メートルの絵なんか並べられるはずありません。とりあえず打ち合わせに出席して話だけ聞いて丁重に断ろうと思っていました。ところが、話が進む中で、作品に合わせて壁を作りましょうということになったのです。一気に視界が開けました。これまでにたくさんの展覧会に参加してきましたが、こんな厚遇は初めてです。ワクワクしてきました。

早速、展示内容の検討を始めました。まずは、最近の大型作品だけで構成してみたのですが、それでは細切れの展示スペースが埋まりません。だからといって、そこを埋めるための絵をこれから描くのも気乗りがしません。ならば、過去作を引っ張り出すしかありません。幸か不幸か、過去作のほとんどは手元にあります。どこまで遡ろうか・・・西南に来たところまで遡ろうか、いやいや学生時代まで、いっそのこと幼少まで、ということでスタートは6歳にしました。次は12歳、その次は17歳の絵を選びました。ここまでの3点は、見せるのが恥ずかしいのですが、出発点なので入れることにしました。そして次は25歳、ここからはその当時の私の精一杯の作品になります。最新作までの10点を選びました。なんだか回顧展みたいになってしまいましたが、それとはちょっと違うと思っています。なぜなら、過去の作品をあれこれ思いかえすことが目的ではなく、最新作に至る軌跡を示すことが目的だからです。それぞれのキャプションには描いた時の年齢を記しました。展示した作品だけだと跳び跳びになりますが、倉庫の中の作品を加えれば全てが繋がります。20代の勘違いや30代の迷いや40代の駄作や50代の失敗作の死屍累々があって、今があります。『トノサマガエル』でスタートして何百という作品を経た先が『Burning tree』です。途中で抜けたり、違ったり、あるいはもっと頑張ったりしていたら、この『Burning tree』にはなっていないのです。

「無駄なことは何ひとつないよ」恩師の言葉です。



Presentation 13-1-1 — 降雨塔 —

1988年（25歳）

70.0 × 70.0 cm 紙、シルクスクリーン

大学では版画を専攻しました。シルクスクリーンという版画技法を使って、写真を合成して作品を作りました。仮想空間が眼前に広がることにドキドキしました。パソコンが無い時代の話です。今では、写真の合成なんて電車で揺られながらでもできますね。

●第8回現代日本絵画展で佳作賞を受賞



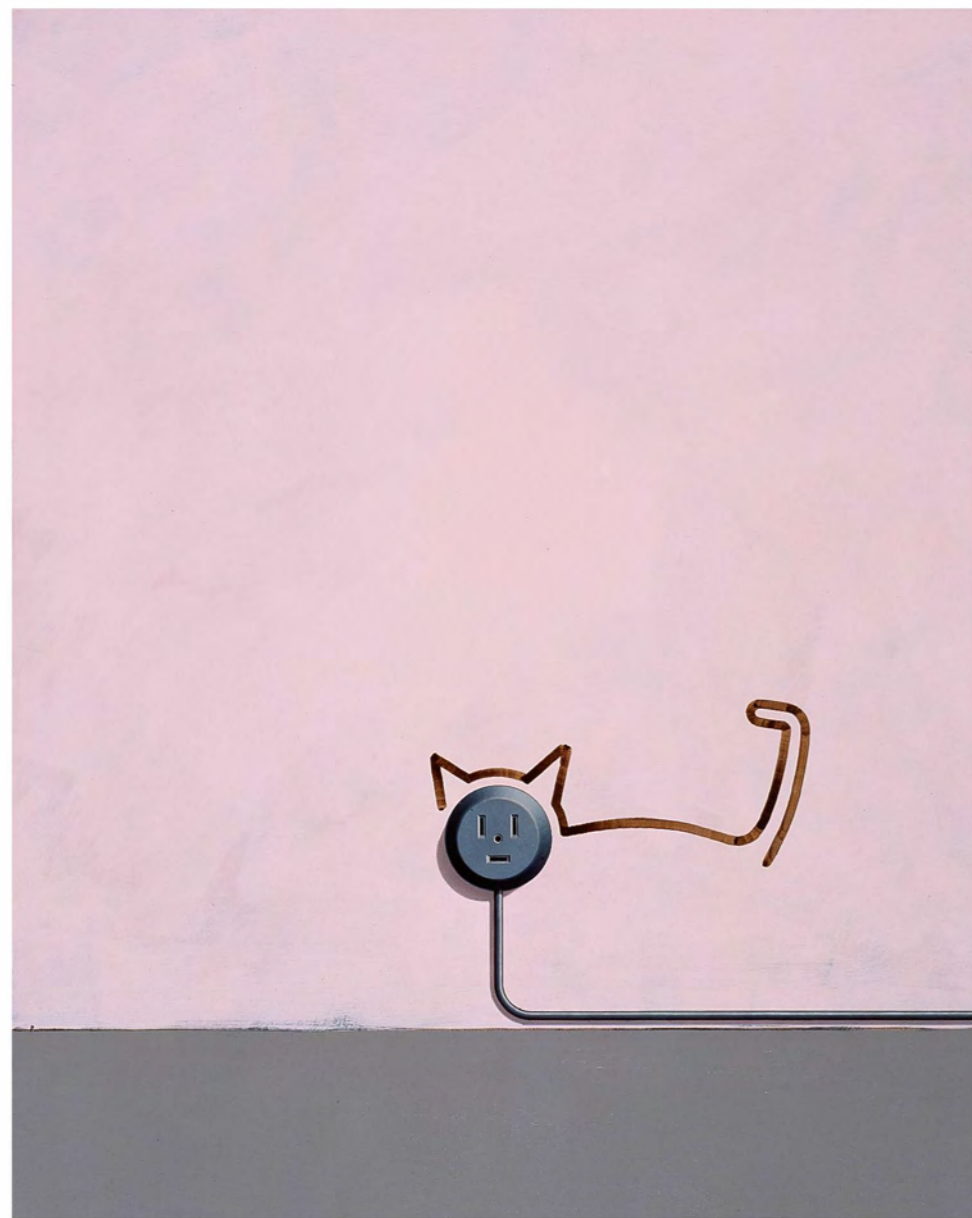
祭壇 1

1995年（32歳）

130.3 × 227.5 cm 紙、アクリル絵具、シルクスクリーン

30代前半まで専門にしていたシルクスクリーンは、印刷の一種です。個人差が出にくい表現技法です。したがって、それを美術作品に使うのであれば、技法以外のところで差異を模索するしかありません。私は“何を描くか”でその道を探りました。1984年～1996年の版画制作期は、まさしく発想トレーニングの12年間でした。

●大阪トリエンナーレ1996に出品



Outlet

2001年 (38歳)

152.0 × 121.5 cm キャンパス、アクリル絵具

西南学院大学のサバティカルを利用してペンシルバニア大学のアーティストインレジデンスに参加しました。ところが、何を描けばいいのかわからず、キャンパスに当てもなく絵の具を塗る毎日でした。画面を横にしたり、逆さにしたりして形を探りました。そうして、ようやくたどり着いたのがこのイメージでした。アメリカのアース付き3穴コンセントが顔に見えるというユーモラスかつナンセンスな絵。



King of Missile

2013年 (50歳)

72.8 × 60.8 cm キャンパス、アクリル絵具

世の中には絵の上手い人がたくさんいます。花や女性を描いたとしても、私の画力では到底太刀打ちできません。なので、なるべく他の人が描いていないものを描くようにしています。この絵では、ミサイルに王冠を被せてみました。私が知る限り、王冠を被ったミサイルの絵は、この絵以外には見たことがありません。

Christmas Missile

2013年 (50歳)

227.5 × 162.0 cm キャンパス、アクリル絵具

ミサイルの絵を続けて描いたので、別のもの描こうと思ってはみるものの、他にあてもないのでついミサイルをだらだらとスケッチしていました。そしたら、ミサイルがクリスマスツリーになっているというイメージが現れました。クリスマスツリーならぬクリスマスミサイル。これは面白い。風刺も頓智も効いている。というわけで広場にクリスマスミサイルが立っているという絵になりました。





One day

2014年 (51歳)

227.5 × 546.0 cm キャンバス、アクリル絵具

大震災を題材にして「人間がどんなに苦しもうと神は助けない」という非情な様を描きたいと思いスタートしました。が、紆余曲折あり、最後にたどり着いたのは、生命の循環を感じさせるカラスの群れでした。震災とカラスを絡めた絵には、会田誠さんに逸品があるためちょっと躊躇しましたが、結果として他とは違う“人知を超えた生命のドラマ”が表現できたと思っています。

■第20回岡本太郎現代芸術賞展で特別賞を受賞



集合住宅A

2015年 (52歳)

97.0 × 324.0 cm キャンバス、アクリル絵具

人はそれぞれ、信じる場所も違えば好きなことも違います。無理に仲良くする必要もなければ、嫌う必要もありません。そんな私の心情を反映した集合住宅になりました。この絵には気に入っているところがふたつあります。ひとつは、右端の3段目。住人は美術愛好家。布団はモンドリアンでカーペットはステラ。どちらも実際にあります。もうひとつは、左端の4段目。水玉模様好きの家族。若奥さんが今まさにバスタオルを干すところ。



Somewhere

2017年 (54歳)

227.5 × 728.0 cm キャンバス、アクリル絵具

ここ最近、戦争やテロといったものが身近になってきたので絵に描いてみることにしました。なのですが、爆弾の音も匂いも知らない私にとっては、戦争やテロにリアリティーはありません。正直なところ、映画やおとぎ話の中で起こっている出来事と大差ないのです。丸木俊さんの「体験しなければわからぬほど、お前は馬鹿か」には耳が痛いのですが、想像してもいまちピンとこないのです。というか、想像すること自体が難しいのです。そんな戦火を遠巻きに眺める傍観者にしか成り得ない様を、絵画的に仕立ててみました。
●第21回岡本太郎現代芸術賞展に出品



呼ばれてないけど描いてみた2 —原子炉内で作業するD—

2017 (54歳)

65.2 × 91.0cm キャンバス、アクリル絵具

2017年秋、六本木の森アーツセンターギャラリーで『ザ・ドラえもん展』という展覧会が開かれました。“ドラえもん”をお題として作品を作り披露するというもの。招集されたアーティストは私と同世代か年下。いずれも現代日本を代表するスターたち。残念ながら私には声など掛かろうはずありません。ちょっと悔しいので試しに描いてみることにしました。その名も『呼ばれてないけど描いてみたシリーズ』ひとつは、ワールドトレードセンターのテロを題材にしたもの。そして、もうひとつがこれです。アイデアはそんなに悪くないと思うのですが、絵画としての魅力が乏しくて失敗作に終わりました。



Burning tree

2018年（55歳）

227.5 × 546.0 cm キャンバス、アクリル絵具

人間の傲慢さが原因なのか、天体の力が働いているからなのか、諸説あるようですが、いずれにせよ地球の居心地が悪くなっているのは間違いありません。実際、ここ数年の夏は、ひと昔前とは違います。エアコンが無ければ生きていけないなんておかしくないでしょうか。しかも、この先さらに悪化し続けるというのでしょうか。SFの中で起こっていたことが、にわかに現実味を帯びてきました。今、まさに、地獄の入り口に立っている、そんな気分です。

略歴

- 1962 宮崎県生まれ
- 1985 筑波大学芸術専門学群卒業
- 1987 筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了
- 1993 文化庁芸術家在外研修1年派遣(ニューヨーク)
- 1996 西南学院大学に講師として赴任
- 2001 ペンシルバニア大学アーティスト・イン・レジデンス(フィラデルフィア)
- 2003 西南学院大学人間科学部児童教育学科教授 現在に至る
- 2013 宮崎県文化賞



トノサマガエル

1969年（6歳）

30.8 × 42.8 cm スケッチブック、クレヨン

主な個展

- 1989 シロタ画廊(東京)
- 1990 シロタ画廊(東京)
- 1991 Gallery Natsuka (東京)
- 1993 Gallery Natsuka (東京)
- 1996 Gallery Natsuka (東京)
- 2000 福岡市美術館特別展示室B
- 2002 Adlams Gallery(フィラデルフィア)
- 2003 高鍋町美術館(宮崎)
- 2003 熊本市現代美術館GIII
- 2007 ギャラリー山口(東京)
- 2008 ギャラリー山口(東京)
- 2010 art space kimura ASK?(東京)
- 2011 art space kimura ASK?(東京)
- 2013 福岡県立美術館展示室1・2・3
- 2013 art space kimura ASK?(東京)
- 2015 art space kimura ASK?(東京)

主なグループ展

- 1984 第2回西武美術館版画大賞展
- 1985 第17回現代日本美術展
- 1986 第16回日本国際美術展
- 1986 第11回クラコウ国際版画ビエンナーレ展(ポーランド)
- 1896 第8回フレヘン国際版画トリエンナーレ展(ドイツ)
- 1987 第2回和歌山版画ビエンナーレ展・佳作賞
- 1987 インターグラフィック'87(ドイツ)
- 1987 第18回現代日本美術展・佳作賞
- 1988 第17回日本国際美術展
- 1988 第12回クラコウ国際版画ビエンナーレ展・買上賞(ポーランド)
- 1988 第8回現代日本絵画展・佳作賞
- 1989 第4回中華民国国際版画ビエンナーレ展(中華民国)
- 1990 第8回現代版画コンクール展・優秀賞
- 1990 第1回高知国際版画トリエンナーレ展・佳作賞
- 1991 大阪トリエンナーレ1991
- 1992 第3回柏市文化フォーラム104大賞展・優秀賞
- 1993 第22回現代日本美術展
- 1994 第23回現代日本美術展・兵庫県立近代美術館賞
- 1996 大阪トリエンナーレ1996
- 1998 第27回現代日本美術展
- 1999 第28回現代日本美術展
- 2000 DOMANI明日展〈文化庁芸術家在外研修の成果〉
- 2000 第29回現代日本美術展
- 2004 第13回青木繁記念大賞公募展・優秀賞
- 2004 CAMK Collection I(熊本市現代美術館収蔵作品展)
- 2005 第14回青木繁記念大賞公募展・優秀賞
- 2017 第20回岡本太郎現代芸術賞展・特別賞
- 2018 第21回岡本太郎現代芸術賞展

作品収蔵

- 熊本市現代美術館
- 兵庫県立美術館
- 大阪府立現代美術センター
- 和歌山県立近代美術館
- 高鍋町美術館(宮崎)
- クラコウ美術館(ポーランド)
- 筑波大学



道

1975年（12歳）

33.4 × 24.3 cm キャンバス、油絵具



サーカスの日

1980年（17歳）

65.2 × 91.0 cm キャンバス、油絵具